

COOP JOSO News Letter

常総生活協同組合
発行 / 副理事長 大石
tel 050-5511-3926

2013 年度活動テーマ
さあいよいよ本格的に
暮らし見直し総点検

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

今年もみんなが がんばりました!

【おしらせ】
今週 1 月 2 回の注文用紙は、
・年明けに回収します(1/6 月～10 金)。
・お届けは 1/13 月～1/17 金です。

2013 常総生協 10 大ニュース



少しずつ、一步步。確かめながら。三陸の水産産地の産物再開 (宮城・高橋徳治商店)



あいコープ福島の組合員さんとの綿の交流 (あいコープ生協まつりにて)



東海第 2 原発再稼働差止訴訟開始 (水戸地裁前)。



地域で少しずつ、常総の輪を広げていきました (青空市)。



新しく常総生協の仲間になりました宮城県のキムチ屋さん「趙さんの味」の李さん(中央) (生協まつりにて)



翻訳本「チェルノブイリの健康影響」を広く頒布しました (崎山先生 (中央) と脱原発委員会の皆さん。つくばにて)

充実の2013年。協同の力に感謝。 2014年もぜひ、一緒にチャレンジしていきましょう!

【年末年始の予定】 ※ 12/19 現在の予定です。

●地域での活動・催し●

1/16 木 10 時 -13 時
脱原発委員会 (本部)
「医師・児玉先生との公開学習会」
こだま医院 (埼玉県比企郡)
児玉順一先生をお招きしての
公開学習会
★社会科教諭の経歴もあり、世界経済や地理的な側面からも、放射能と病気の問題についてお話を伺います
★詳細は常総生協ホームページか、生協までお電話ください。

●基幹運営・対外関係●

1/31 金 10 時 -13 時
第 8 回定例理事会 (本部)
.....
★ 1/16 (木)「公開学習会」のお申し込みは生協までお願いします。
050-5511-3926 (本部)
【予告】
新年 1 月より皆さんのお住まいの近隣地域で恒例「味噌作り講習会」を開催します! (詳細別途)

先週加入された、常総生協の新しい仲間をご紹介します!

～こんな理由で加入しました～
「地元の生産者を大切にしながらも、放射能問題に対して正直に取り組む姿勢が信頼できると思い、加入しました!

他生協を利用していましたが、原発事故があってから放射能の事が心配でした。常総生協は生産者が分かる農産品を扱い、しかもセシウムの核種を分けてカタログに表記するなど、取り組みから正直な姿勢が伝わってきました。(土浦市 Nさん)
供給担当まで一声おかけください (担当に会えない場合は注文用紙右下の「ご意見欄」をご活用ください)。
資料と試食を持ってすぐにお伺いします!

【2013 常総生協・10大ニュース】

震災からもうすぐ3年。これからも一歩ずつの歩みに寄り添いながら。

【その1】(被災地に寄り添う) 震災からもうすぐ3年。 一歩ずつの再開をみんなで。

●高橋徳治商店 (宮城県・東松島。魚肉練製品)
・震災から2年4カ月が経った2013年7月。心寄せ、みんなで待ち続けた新しい工場が完成しました。
・工場は新しく建てましたが、中身の機械の8割は皆でヘドロから引き上げ、磨き上げ、2年かけて修理した機械です。

「本当は、何度辞めようと思ったことか…けど、食べてくれる人がいる、待っていてくれる人がいる、皆さんの声援があったからこそ、新工場を決断できたんです。私の代では借金は返せません。本物の食べものを大事にする同じ仲間として、息子、社員と子どもどうにかよろしく！」

●コタニ (岩手県・大船渡。海藻乾物)
・震災前の設備にはほぼ戻ったものの、売り上げが元には戻っていない状況です。現在、海藻以外の乾物の開発に踏み込むなど、果敢に挑戦を続けています。

●まるたか水産 (宮城県・石巻。かき・うに加工)
・この秋やっと、自慢の2年子(にねんこ)かきの水揚げが開始されました。今年のかきも組合員から「口の中であろける旨さ」と好評です。

●塩屋 (茨城県・ひたちなか。しじみ、水産加工)
・第2工場立ち上げ間もない時の震災、液状化。そんな中、自分の工場よりも東北、福島の子どもの生産者の再建を優先して駆け回った塩屋の石原さん。
・震災からもうすぐ3年を目の前に、やっと、自分の工場を修繕して動かせるようになりました。
・現在は、地域の障がいがある皆さん数名も仲間に入れ、地域の仕事づくりにも尽力されています。いよいよこれからです。

【その2】(福島連帯) 福島の人々に寄り添い、 これからも共に生きていく。

●あいコープ福島の方々とつながり



・震災原発事故後、和綿の子ども用の布団を支援したことにつながった、あいコープ福島のみなさん。

・2013年は、常総生協、あいコープ福島一緒になって、和綿を種から栽培してみよう、と言うことになり、9月にはあいコープ福島さんからのご招待を受け、郡山で綿交流会を開催。

・綿に触れ、その独特のやわらかさが、子どもたちとお母さんの心の安らぎになっていることがとても伝わってきました。

●福島の里海・相馬とのつながり



・かつて「高級鮮魚出荷漁港」で名を馳せた相馬原釜。今では20種類近くの魚が試験操業対象となっているものの、まだ週に1回程度の出漁。

・「どうせ売れない」「獲ってもお金にならない」「漁に出

なくても補助金で暮らせる」。原発事故後、浜の人々の様子も変わりました。

・そんな中、「補助金ばかりに頼ってはいけません。汗水流して働いて稼ごう」と立ち上がったのが相馬はらがま朝市クラブの皆さんです。前浜の魚はまだ使えないので、県外の原料であっても加工を続け、商品開発にも力を入れています。

【その3】(子どもの健康を守る活動) 子ども達の健康は、地域の大人が守る。

・2013年、本当に組合員みなさんが頑張りました。
・とりわけ、2012年末に常総生協の脱原発委員会メンバーの手で翻訳し、製本した「チェルノブイリの健康影響」の翻訳本と「ミニパンフ」。多くの方に頒布できました。
・「翻訳本」は催しがある度に組合員自らが携えて紹介し、この1年で合計1600冊以上を頒布できました。放射能を心配する母親を始め、各界の学識者にも高い評価を得ました(国会図書館にも所蔵登録)。

・また、私たちが住むこの地域を、「原発事故子ども被災者支援法」の支援対象地域にさせ、子どもの健康調査を政府が責任もって行うために、常総生協の組合員始めとする「放射能から子どもを守ろう関東ネット」を結成。3月には「放射能から子どもを守るための対策を求める請願書」を衆参両院に提出。さらには、度重なる省庁交渉、議員訪問など、精力的に取り組んできました。

・残念ながら11月の政府決定では対象地域から外されましたが、まだ諦めません。引き続き皆が関心を寄せ、声をあげていきましょう。

・2013年1月、生協で子どもの健康調査を開始しました(1/19-20)。2日間で218人の子ども達の血液検査を実施し組合員家族に知らせました。1年経った今でも貴重な臨床データとなっており、今後行われる甲状腺検診と併せることで生活上気をつけることなどがより分かるようになります。組合員みんなで調べ、行動する基礎となりました。
・生協単独では継続が難しい為、9月には常総生協を事務局とする「関東子ども健康調査支援基金」を設立。関東の多くの市民、団体、心ある医師と連携して、今後甲状腺検査を中心に実施していきます。



・また9月には、チェルノブイリ事故から27年経つベラルーシ共和国に常務理事を派遣。国を挙げて取り組む健康調査の体制に衝撃を受け、帰国後、組合員報告会を開催。基金の甲状腺検査ネットワークシステムの構築の参考となりました。

・3月に始まった、組合員による「放射線・てくてく歩いて見る隊」は3地域5か所で実施。GPSを使って実際の通学路の汚染状況などを組合員が調査しました。

【2013 常総生協・10大ニュース】

常総生協の仲間を増やし、「脱原発」と「暮らし見直し」を地域みんなで！

【その4】(脱原発と暮らし見直し) 原発の無い社会。 暮らしの見直しをみんなで！



- ・2013年1月17日。東海第2原発運転差し止め訴訟の第1回の口頭弁論が行われました。水戸地方裁判所には法廷に入りきれない原告、傍聴であふれました。
- ・原告の冒頭陳述では「この裁判は、福島原発事故と国民の苦難という厳然たる歴史事実を経て行われる裁判です。原告であれ、被告であれ、国民、社会が何を学び、何を後世に残すかを問う裁判です」と述べました。
- ・次回第4回目の口頭弁論は2014年2月を予定しています。ぜひ引き続き関心を寄せてください。裁判所にもご一緒しましょう。

【その5】(なかまづくり) 組合員と職員が一緒になって、 「仲間」を増やす活動が一步前進！

- ・「社会を変える力は、あなたの台所です！」と、力強いメッセージをチラシに寄せて頂きました。組合員が常総生協の想いを語ってくれる素晴らしい内容のちらしでした。
- ・そのチラシを皆で配布する呼びかけをしたところ、今度は地域の組合員が「出来る限りですが、いっしょにまきます」と声をあげて頂きました。
- ・その後は、クッキングキャラバン、青空市などに組合員協力頂きました。組合員も関わって、自分の生協の仲間を増やす活動が一步前進しました。

【その6】(商品事業) みんなの要望で継続できた商品。 新しい商品と生産者も仲間入り。



- 「サツラクの純生クリームが無くなる!？」
- ・8月末、常総生協内に衝撃が走りました。
- ・「充填機の老朽化が激しく、直すにも部品が無い。新しい充填機を買うにはとても費用がかかります。残念ながら・・・」とサツラクの担当者さんからの一報。何とかならないか？「まずは、組合員の思いを手紙で届けてみよう」と多くの組合員からの直筆の手紙を寄せて頂き、サツラクに届けました。
- ・サツラクの皆さんで一生懸命検討して頂いた結果、他の商品を充填する機械を流用頂けて継続決定！
- ・脂肪球を均一化しない(ノンホモ)昔ながらの生クリームはなかなかありません。ノンホモの生クリームは振動や温度変化に弱く、少し手荒に扱うと固まります。「良さが分かってきて、扱いが丁寧な常総生協なら大丈夫」として取り組みを開始した「サツラク生クリーム」。これからもぜひみんなで育てていきましょう。
- (2013年・主要新商品) ●宮城「越さんの味」のキムチが新登場
●鈴木牧場の「さけるチーズ」が新登場
- (無念…終了メーカー) ●ボランの森パン工房

【その7】(教育文化事業) 地域や歴史を知り、広める活動が進みました。

- ・常総生協では、6年前から戦争体験を語り継ぐなどの活動をしてきました。
- ・2012年度には組合員主体の活動として「平和の集い実行委員会」が発足。私たちが住むこの地域の「戦争の跡」

を歩き訪ね、見えてきたことを話し合いました。

- ・5月には「戦争と暮らし展」を約1カ月間開催(5/28-6/2)。今しか聞けないおじいさん、おばあさんからの大切な伝言をみんなで聞き、学びました。

【その8】(理事会) 経営課題の集中討議から、 商品を知り普及する活動にも入りました。

- ・今年の理事会は、昨年秋からの半年以上に及ぶ経営問題討議に時間を割かざるを得ませんでした。
- ・そしてこの秋からようやく、まずは商品について理事が勉強し、できることから組合員や地域に普及していく活動に入りました。
- ・第一回目の理事商品学習会はお豆腐をテーマに、丸和食品の稲葉社長にお越しいただきました。
- ・「昔どおりにつくることが「こだわり」となってしまう。しかし、その「普通」が続けることが非常に難しい時代です」と理事に語りかける社長。国産の大豆の自給率は現在3%。難しい時代になってしまいました。
- ・「安心・安全で、しかも安くて美味しいものが食べたい」。消費者の「要望」が、生産現場を苦しめることが無いように皆で考え、広めなければならぬと実感した学習会でした。
- ・来年以降も学習会を続ける傍らで、地域に向けて4つの「暮らし見直し」提案を実行していきます。

【その9】(経営と事業) 事業の健全化を目的とした「配達料」と、 将来基盤を強めるための「基本料」の導入。

- ・2013年初より、理事会より基本料、配達料の提案をさせて頂きました。多くの組合員からの意見を受け、約半年間の理事会討議をしました。
- ・結果、2013年4月1日より配達料105円、基本料100円を組合員に負担頂き事業を採算ベースに乗せることとしました。
- ・配達料については年度末の3月末時点で、年間利用額が28万円を超えた場合に返金する仕組みとしました。
- (その他)
- ・59コースから53コースに圧縮し効率化しました(人的余力は新規事業を立ち上げて雇用の確保に努めました。
- ・2月「マイセツ」、10月「ネット注文」開始。

【その10】(業務改善) 業務の見直しと効率化が進みました。

- (体制)
- ・2013年2月、職員体制を若手中心に刷新。創業から数えて「第三世代」となります。常総生協の次期10年を担う体制作りをすすめます。
- (新規組合員のフォロー)
- ・新規加入された組合員をそのままにせず、「常総生協のある暮らし」に乗せられるようにフォローする体制作りが前進しました。新規加入者に対して「加入2カ月アンケート」を実施し、問題があればすぐに対応するようにしました。
- ・・・以上、2013年常総生協10大ニュースでした！・・・

【3つの報告】3度目の冬を迎える福島の方々を思う・・・

原発事故から2年半以上。たまたま福島原発で、東海第二ではなかっただけのこと。同じ境遇になっていたかもしれない。分断されバラバラにされた避難先や仮設住宅から「後世のために」と再びつながりあって国と東電を相手に集団訴訟を起こした相双のみなさん。折れそうな気持ちと不安を抑え「ここで生きて、子も育ててゆく」と決意して生協に集い支え合いながら踏ん張っているあいコープふくしまの母親たち。何より自然が生命と食の源と汚染された大地を耕しその只中から原発を討つと有機農業を続け、かの地から世界に発信しようと「福島有機農業学校」を設立した二本松の有機農業者と消費者たち。「棄民と分断と強制帰還」という歴史に対し、わたしたち民衆は共に生きる人間として、市民としてつながり、支え合ってゆきたい。

相馬・双葉の被災者が国・東電を相手に責任明確化と生活補償を求めて集団提訴

12/14 福島被害者の訴えを聞く会・交流会（脱原発ネットワーク茨城）



相双の会の國分さん

「私たちは真面目に働き、故郷を興してきました。それがなぜこんな仕打ちを受けねばならないのでしょうか。家族が同じ屋根の下で暮らしたい、生活再建のメドをつけたい、子ども達を放射能から守ってあげたい、ささやかな願いが何故踏みにじられるのでしょうか。つらいのは共通の苦しみを味わされながらも、避難者・被害者同士が分断されていることです」。

こんな思いは二度と皆にさせてはならない。今私たちが黙っていることは、同じことを繰り返させること。「後世のために」と「相双の会」を立ち上げて再びつながり、責任の明確化と生活保障を求めて国と東電の集団訴訟に立ち上がりました（6月）。全国に散った避難先各地でも集団訴訟があとに続いています。

福島の人たち家族の生活再建なくして脱原発もありえません。

生協でも連帯の会を作りましょう。



この地で家族が生協に集い、子らの安全を確かめ、交流し気持ち支え合って暮らす

11/23 あいコープふくしま 生協まつり・生産者・消費者交流会

避難できる事情なく、放射能の不安で心折れそうなかで「生協の仲間がいる。ここでこの子を生んで育てる」と決意し、ここでどう生き抜いてゆくかをみんなの知恵を集め、生産者と共に食とくらしの安全に全力で取り組んできた「あいコープふくしま」の母親たち。



綿繰りコーナーの常総組員

心強くして子らを守る姿に、心から連帯。「ぐっすり眠って」と和綿ふとんを贈った交流から3年目には、ふくしまの

組合員家族が育てたワタの綿繰り交流にまで発展させてくれました。



あいコープ生協まつり風景（郡山）

被災地にあって「生協が安心の岩」と、自分たちの力で安全と人のつながりをつくりあげてゆく、福島のお母さんたち！共に心と知恵つながって、未来の子もたちを。また来年会いましょうね。

汚染された大地から人間のいのちと社会の再生を問う「福島有機農業学校」設立

12/4-5 日本松有機農業研究会 + 日本有機農業研究会

2011年5月、「私たちが宝にして作り上げてきた田畑の土壌が放射能で汚染されてしまった」沈痛で絶望的な中で「有機農業は農薬や化学肥料で汚染されたところから出発した。もう一度百姓として大地を信じて種を蒔き土を耕し続けよう」とみんなで決意した福島三春有機農業集会。



支援委員長は魚住さん

あれから2年半。日本有機農業研究会の中に、全国からの資金カンパで福島・東北支援委員会が

結成され、放射能低減化器機類が現地に送られ、土壌の放射能低減化対策、消費者が一齐に



農業学校の看板を手に二本松有機農研のみなさん

入って収穫や片付けの手伝いをして生産者の被曝を減らす「猫の手作戦」を3度にわたって開催。

そして2013年12月、福島の地から原発汚染・農薬・化学肥料という近代を問う有機農業を世界に発信しようと「福島有機農業学校」が設立された。